



貯穀害虫について



米や麦などの貯蔵穀物を食べる害虫を「貯穀害虫」と呼びます。貯穀害虫は、乾麺やパン、焼き菓子などの加工品も加害します。小型の昆虫が多く、体長5mm以下の甲虫類と蛾類が中心です。ここでは、代表的な貯穀害虫について紹介します。

	メイガ類 <u>ノシメダラメイガ</u> (熨斗目斑螟蛾)	コクゾウムシ類 <u>コクゾウムシ</u> (穀象虫)	コクヌストモドキ類 <u>コクヌストモドキ</u> (偽穀盗)	シバンムシ類 <u>タバコシバンムシ</u> (煙草死番虫)
体長等	卵は直径約0.4mm。幼虫は10~12mmで頭部は茶褐色、腹部は乳白色など。成虫は7~8mm。	卵は長径約0.5mm。幼虫は約2mm。成虫は約2~3mmで、象の鼻のような長い口吻(こうぶん)が特徴。	卵は直径約0.1mm。幼虫は約6mm。成虫は3~4mmで、赤褐色、頭頂部が平たい。	卵は直径約0.3mm。幼虫は約4mm。成虫は2~3mm。赤褐色の コロンとした体型 で光沢がある。
発生時期	春~秋に多い	春~秋に多い	夏~秋に多い	晩春~秋に多い
雌の生涯産卵数	約200個	約200個	500~1000個	約50個
卵から成虫になるまでの日数	30~70日。	約30日 (25~30℃)	約45~100日	約40日
成虫寿命	約7日	100~200日	200日以上	10~25日
加害する食品	幼虫は食性が広い。小麦などの穀類、穀粉、豆類、 チョコレート など	米 、麦、トウモロコシのほか乾麺やビスケットなど	小麦粉 や米粉などの 穀粉 や 穀粉屑 、ビスケットやパンなど	幼虫は雑食性 。粉類、菓子、乾麺をはじめ、タバコの葉や畳など
特徴	玄米の場合、幼虫は胚芽部に次いでぬか層を食べる。幼虫は 穿孔(せんこう)力(穴を開ける力) があり、包材を食い破って侵入することもある。成虫は餌を食べない	成虫は長い口で穀物の粒に穴をあけ、その中に1個ずつ卵を産む。ふ化した幼虫は 粒の中で育つ て蛹になり、成虫となって外に出る。成虫も穀物を食べる。	小麦粉の害虫として世界的に著名。成虫は飛翔できる。発育に適する温度は25~35℃。	機械の隙間の粉だまりや貯蔵倉庫などから発生する。幼虫は 穿孔力を持つ 。成虫は飛翔し光に誘引されやすい。餌を食べない。一般家庭でも多く見られる。

参考:「食品害虫」農研機構、「害虫と商品の情報サイト」イカリ消毒

防除対策として、こまめに清掃し、餌となりやすい粉だまりや食品屑などを残さないようにします。また工場などでは、早期発見のためフェロモントラップなどを用いたモニタリングが有効です。

<米について>

野外で栽培される水稻(米)には、風で飛ばされた種子や小石が水田に入ることや、玄米に貯穀害虫が卵を産み付けるなど、さまざまな異物混入のリスクがあります。

そのため、玄米保管施設では適切な温度管理を行うとともに、精米(とう精)工場では、工場内の害虫駆除に加え、精米する際には石抜き機・光学選別機・ふるい機・色彩選別機・金属探知機等々、いくつかの選別工程を経て、異物混入の防止に努めています。